

CERAM-F2

Ceramic Economical Reform Allround Major-Flat type.

地震・台風 防災瓦

低勾配対応
【2.0寸勾配～】

新東の陶器瓦は
遮熱性に
優れた屋根材

ストレートブラック

メタリック

ブラウン

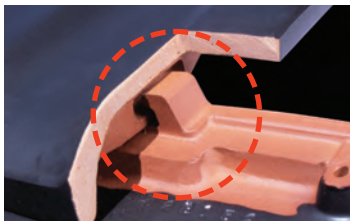
ラスティグリーン
【プレミアム色】



製品紹介(動画)

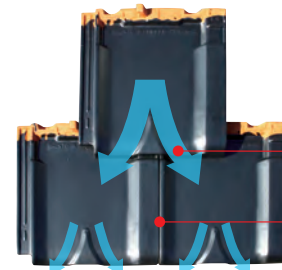
防災瓦 / S-PRO 地震・台風にも安心

防災機能が上下の瓦をしっかり固定。特許第3502309号



高い防水性

意匠登録第1073682号



高い水返し

雨水拡散

瓦接合部への
流入を低減



TM袖瓦

袖瓦側面の雨垂れ
軽減率アップ。

ウォーターレール機能搭載により
雨水を軒先へ誘導します。

※雨樋を角瓦より必ず
延長してください。



流れてきた雨水は
表面張力で瓦を
伝って雨樋まで
リレーします。

雨がウォーターレール
(雨の通り道)を通ることで
雨垂れを軽減してくれます！

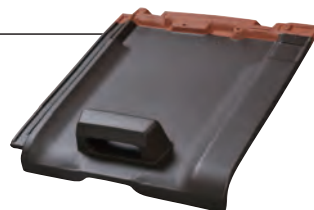


製品紹介(動画)

雪止瓦

屋根からの積雪落下軽減。
雪止金具よりも雪止瓦。

※気象条件などによっては、雪が落下する恐れがあります。
※設置方法などについては、施工業者様に御相談ください。



ストレートブラック



●CERAM-F2 / カラー：ブラウン



●CERAM-F2 / カラー：ブラウン

塗り替えスケジュール

※陶器瓦につきましても、10年ごとの定期点検をおすすめします。 ※住宅産業協議会参照

種 類

彩色セメント板

セラム-F2(陶器瓦)

10年後

表面塗装費用が必要

塗り替え不要

20年後

表面塗装費用が必要

塗り替え不要

30年後

葺き替え費用が必要

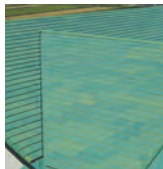
塗り替え不要

粘土瓦の特性について

瓦は天然素材である自然の粘土を原料とした大型厚物焼成品です。粘土は採取場所により、その成分・性質は微妙に異なり、また同一場所の採取でも全く均一ではありません。このため瓦には、天然素材特有の現象が見られることがありますが、瓦本来の品質、性能に何ら問題はありまませんので、安心してご利用いただけるようお願い致します。

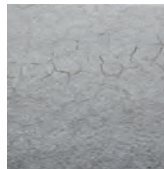
●色ムラ

粘土成分の違いや、気圧・気象条件による焼成窯内雰囲気の変化により、微妙な色ムラが発生している場合があります。



●貫入(かんにゅう)

陶器瓦(釉薬瓦)には貫入(かんにゅう)と呼ばれる表面亀裂が発生する場合があります。これは陶器製品特有の現象で生地を焼いて焼結させる場合、粘土と釉薬の収縮率の違いにより釉薬表面に細かい亀裂が発生します。但しこれは製品生地までの亀裂ではなく製品の品質(漏水、強度など)には問題ありません。



●表面の汚れ

施工後、日焼けによる色あせやホコリの付着などによる色合いの変化が発生する場合があります。また、住宅の立地条件により瓦表面に緑藻類などの汚れが付着することがありますが、屋根材としての品質・性能及び耐久性を損なうものではありません。

■防水性能試験データ ※愛知県三河産業センター

屋根勾配	1.5/10
瓦の働き長さ	265mmに設定
降水量	240mm/hr
圧力	1470~980Pa(風速49~40m/秒)
試験結果	水滴付着のみ

※全てのロットに対して試験は行っていません。

また、防水保証をするものではありません。

※屋根勾配が2.5寸以下の場合は、瓦の働き長さ265mmでの施工と、粘着ルーフィングの使用を推奨します。

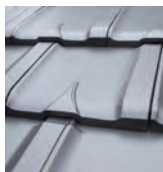
●改良のため、仕様・外観は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

●カタログ掲載の写真は、施工の一例であり実際と異なる場合があります。

●カタログ掲載の写真は、印刷のため実際の色とは多少の差があります。

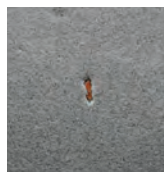
●ネジレ・寸法

焼き物特有の若干のネジレや寸法のバラツキがある場合があります。また瓦は重ね合わせて施工していきますので、葺き上げ後に瓦と瓦の間に隙間が発生することがあります。



●ピンホール

陶器瓦(釉薬瓦)には釉薬面にピンホールと呼ばれる小さいへこみや粘土素地の露出が発生している場合があります。釉薬の気泡や粘土に含まれる有機物(イワ木、小石等)などが燃焼して発生するものですが、品質(漏水、強度など)には問題ありません。



標準屋根勾配とその流れ長さ

標準屋根勾配	2.0/10	2.5/10	3.0/10	3.5/10	4.0/10	4.5/10	5.0/10
その流れ長さ	6m	10m	12m	14m	16m	19m	22m

安全に関するご注意

- 当社製品を使用される際は「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」に基づく施工を推奨します。
- 粘土瓦の施工には専門の工事が必要です。専門工事業者にご相談ください。工事に不備があると、落下・雨漏り等の原因になることがあります。
- 寒冷積雪地域あるいは強風地域では、特殊な工事が必要とする場合があります。こうした地域で粘土瓦を使う場合には、専門工事業者にご相談ください。
- 粘土瓦を使った屋根は、関連する工事標準仕様書に基づいて設計してください。特殊な設計を行う場合は、専門工事業者にご相談ください。

■三州瓦 製造・販売



新東株式会社

本 社 / 〒444-1314 愛知県高浜市論地町4-7-2
TEL(0566)53-2631 FAX(0566)52-2217
東京支店 / 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-6-11
共栄ハイツ東高円寺1F
TEL(03)5378-7851 FAX(03)5378-7853
ホームページ <http://www.shintokawara.co.jp>

登録範囲:

粘土瓦の設計・開発及び製造
JIS Q 9001 認証取得
JIS Q 14001 認証取得

現在、陶器瓦には遮熱についてのJIS規格はありません。

